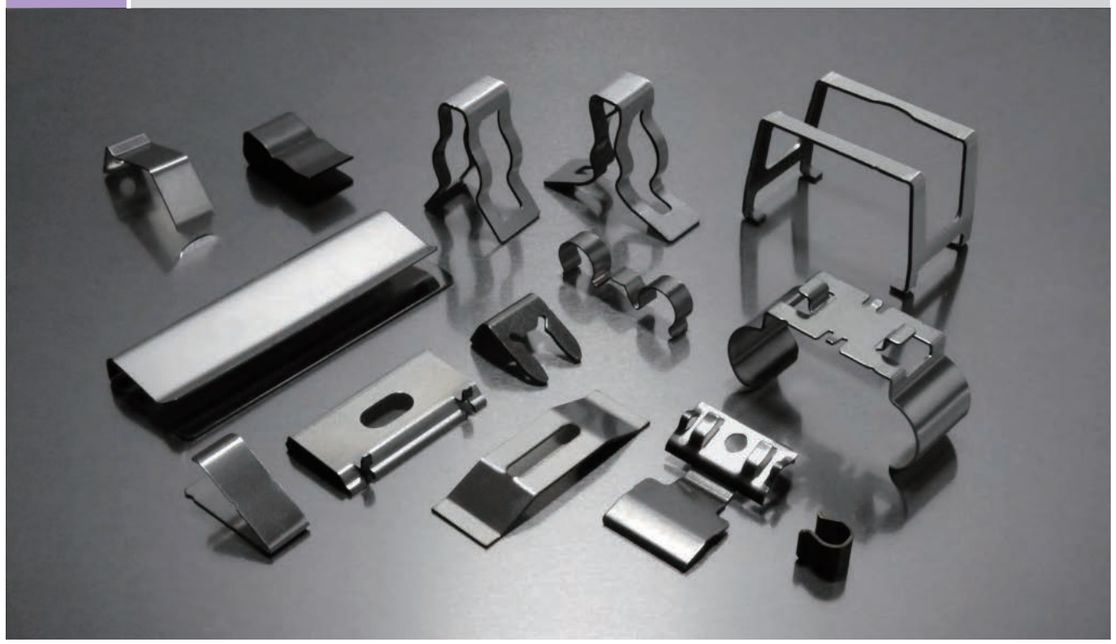
09

昭和スプリング 株式会社

https://www.showasp.jp/



板ばね例品例

アイデアで勝負する
板ばね中心のプレス部品メーカー

平成26年度 補助事業と具体的成果

■ 事業テーマ

板ばね試作開発における
検査工程・リードタイム短縮の実現

■ 事業概要

板ばねの試作品では高精度化が進んでいる。その試作開発時や開発後の量産体制構築時の寸法検査工程では、従来手作業で平均10回の検査回数が必要とされ、その検査に必要なリードタイムに４時間も要していた。取引先からは量産にいち早く取り掛かるために「リードタイム50％の削減」を要求されていた。これを新たに画像寸法測定器２台を導入することで、平均10回だった検査回数を1回に、４時間要していたリードタイムを30秒に短縮することができた。



補助事業で導入した画像寸法測定器

課題	取組	成果
●リードタイムの削減	●画像寸法測定器の導入	●平均10回だった検査回数が1回に ●リードタイムを30秒に短縮

■ 業務内容

医療・工具・航空関連部品・精密加工分野へも進出

昭和スプリングは昭和47年４月に設立された。板ばねの製造を主にする金属プレス部品加工業を営む。設立時は蛍光灯の留め具などの照明器具部品を主としていたが、今ではそのほかに自動車関連部品、建築・金物部品の３つが柱となっている。さらに５年程前からは医療・工具・航空関連部品や精密加工の分野にまで進出している。

引戸用のブレーキ機構を日本で初めて開発

同社が手掛けるのは板ばね単体ばかりではない。板ばねを利用した機能部品で代表的なものの中に、大手建材メーカーなどへOEM（相手先ブランド）供給する一般住宅の引戸用のブレーキ機構がある。これは10年以上かけて同社とお客さまとの共同開発にて日本で初めて平成16年に開発した商品だ。業界では画期的な商品として受け止められ、今も同社の売り上げに大いに貢献している。その中には、同社が主に製造する板ばねのほかプレス部品、樹脂成型部品などが組み合わされている。

どんな板ばねを設計・開発すれば良いのか、何よりばねの破損や疲労による機能低下はもっとも避けたいクレームの一つとされるが、そこに経営資源を集中させながら若い力で問題解決に注力する。



自動車部品の測定現場

■ 強みとビジョン

顧客の企画・設計段階から参画

同社の顧客との関わりは製品のアイデア出しから始まる。もともと前社長である北村勝博社長の父が“アイデアマン”であったことから、その流れを引き継ぐ。今は開発チームのメンバーが営業と一緒に顧客回りをして打ち合せをするが、通常なら顧客からの設計図通りに製品を作って納めるところでも、例えば照明器具の留め具なら、「こういう留め方がありますよ」「こういう材料を使えば良いですよ」「こんな形状で留めればどうでしょう」といったように提案をする。



建築金物部品製品例

顧客との長い付き合いが次のアイデアの源泉

これまで培ってきた加工ノウハウをベースに顧客の新製品開発の企画・設計段階から参画する。非常にニッチな分野ではあっても、ここに経営資源を集中させて独自性を持たせている。その結果、その部品を含めた特許の出願に至ることも多く、「一度お付き合いいただいた顧客とは長く関係を持たせていただいており、中には40年以上にもおよぶ顧客もある」と北村社長は言う。ものづくりで、ゼロから一を作り出す発想に。「そこまで考えていなかった」と顧客が思うところまでの提案が、顧客を惹きつけている。



照明器具部品製品例

ものづくりの楽しさを次世代に引き継ぐ



ものづくりの楽しさを人手不足と言われる時代の中でも感じてもらえるように、特に「3K」と言われる職場のイメージを払拭したいと考えています。平成26年に進出したフィリピンの工場も３年で軌道に乗せることができました。今後も板ばねを中心にしたプレス部品メーカーとして一層グローバルに事業を展開していきたいです。



代表取締役
北村 勝博

- **社　名**　昭和スプリング 株式会社
- **代表者**　代表取締役　北村 勝博
- **住　所**　〒584-0023
  富田林市若松町東1－8－30
- **ＴＥＬ**　0721－20－3333
- **ＦＡＸ**　0721－20－3331
- **資本金**　20,000千円
- **従業員**　63名

- **主な取引先**　自動車、照明器具、建築金物、医療機器、精密機器、航空機製造などの各メーカー
- **主な保有設備**　プレス機、ベンダー、ワイヤ放電加工機、マシニングセンター、ボール盤、NCフライス盤、平面研磨機、成型研磨機、投影機、測定顕微鏡など
- **主力製品**　板ばね、プレス金型、製品検査組み立て

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　量産OK　海外対応　試作OK　連携力

REPORTER'S EYE

平均年齢がちょうど30歳という若い会社だ。かつては高齢化が進んでいたようだが、10年以上毎年１名から４名の新規採用を続けてきたという。その若手には「2、3年は付きっきりで教える」という“家庭教師方式”で技術を伝承する。コストはかかるだろうが、そこで小さな成功体験を積むことで、仕事に自信と誇りを持っていくのだろう。社内では野球部やゲーム部といったクラブ活動も生まれている。コミュニケーションの良さが業績を支える。